

避難行動の分類

立ち退き避難

居住者等が、自宅・施設等において命が脅かされるおそれがあることから、その場を離れ、災害リスクのある区域等の外側等、対象とする災害に対し安全な場所に移動し避難すること。



屋内安全確保

自ら自宅・施設等の浸水想定等を確認し、上階への移動や高層階に留まること(待避)等により、計画的に身の安全を確保すること。

- ① 自宅・施設等が家屋倒壊等氾濫想定区域^{*1}に存していないこと
- ② 自宅・施設等に浸水しない居室があること
- ③ 自宅・施設等が一定期間浸水することにより生じる可能性がある支障^{*2}を許容できること



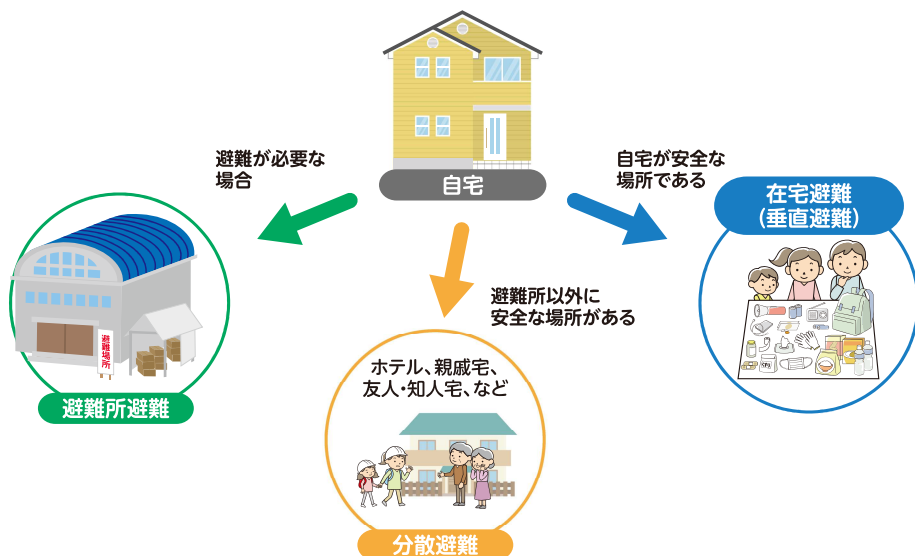
※1 家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊に伴う激しいはん濫流や河岸侵食が発生することが想定される区域のこと。
※2 支障の例：水、食糧、薬等の確保が困難になるおそれ

緊急安全確保

命の危険から身の安全を可能な限り確保するため、その時点でいる場所よりも相対的に安全である場所へ直ちに移動等し避難すること。

分散避難とは・・・

- 親戚宅、近隣宅等、避難所以外へ避難することにより3密を防止し、感染症による2次災害を防ぐための避難方法です。
- 災害発生時に、自宅が安全な場合、自宅に留まる方法(在宅避難)
- 安全な地域に住んでいる親戚や友人・知人宅や宿泊施設などに避難する方法



※体調が悪い場合：掛かりつけの病院及び保健センターにお問い合わせください。

避難時の注意点

迷ったら即避難

「自分の命は自分で守る」という意識を持って行動しましょう!

避難における事前準備

- 1 自宅等における災害リスク(危険箇所)を把握しましょう。
● 川のはん濫、急傾斜地、河岸の低地等
- 2 災害リスク(危険箇所)が有り、避難が必要な場合は避難場所を事前に決めましょう。
● 避難所は市の指定避難所、親せきの家、近隣の堅固な建物、公民館等
- 3 避難所が決まったら、これに通ずる避難経路を選定しましょう。
● 安全に避難所に行ける道を選びましょう。
- 4 避難の開始時期を決めましょう。
● 気象予報か市の避難情報を活用しましょう
● 要配慮者等→「警戒レベル3高齢者等避難」
● 健常者→「警戒レベル4避難指示」(危険な区域から全員が避難です)

避難時の注意点

戸締り・ガス・火元・電気のチェック

避難の際は、火の始末と戸締りを行いましょう。避難時の持ち出し品は、必要最小限になるようまとめましょう。

メモを残す!

外出中の家族へは、避難先を書いた伝言メモを目立つところに残しておきましょう。

車での避難は控える!

緊急車両の通行の妨げになります。浸水すると動けなくなりますので危険です。

速やかに避難を!

動きやすい格好で、2人以上で避難しましょう。災害に巻き込まれる可能性があるのも、忘れ物などを取りに、家に帰らないようにしましょう。

洪水・土砂災害での避難の仕方

歩ける深さはひざの高さ!!

歩ける深さはひざの高さ。水がひざまで来たら助けを呼び、高い所で救助を待ちましょう!



履き物に注意!

裸足、長靴は禁物です。ひもでしめられる運動靴が良いでしょう。



ロープでつながる!

はぐれないようにお互いの身体をロープで結んで避難しましょう! また、水面下には危険が潜んでいます。長い棒や杖がわりに安全確認をしてください。



援助が必要な人がいたら

高齢者や病気の方

お年寄りや子ども、病気の方などは、早めの避難が必要です。みなさんと協力して避難しましょう。

目の不自由な方

はっきり、ゆっくり大きな声で話しかけましょう。誘導する場合は、ひじの辺りを軽く持ってもらいゆっくりとした速度で半歩前を歩きましょう。



耳の不自由な方

話す時はまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。手話、筆談、身ぶりなどの方法で正確に情報を伝えましょう。

体の不自由な方

車いすの方の場合、階段では必ず3人以上で! 昇る時は前向きに、降りる時は後ろ向きにします。

もしも、土石流に遭遇したら逃げ方に注意しましょう!
土石流は流れるスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して、直角に逃げる等、逃げ方に注意しましょう。

